
See Sports実現に向けた大規模大会の動画配信 実証実験2023年度結果 ～第88回全日本学生ヨット選手権大会 リアルタイム動画配信・視聴者アンケート報告～

2024年3月25日
日本セーリング連盟 経営企画室
See Sports実現チーム



SeeSportsの価値向上のための課題・解決に向けて

- セーリング競技大会の観戦については、海上で実施する競技環境のため、競技状況や臨場感・応援環境・一体感などの理解が難しく、これらを体感する最新技術の導入には多大なコストがかかります。放映が実施される大規模大会以外では、身近な関係者(大学関係者、保護者、知人・友人等)のオンサイト・オンラインでの観戦が難しくなっており、セーリング普及の阻害要因になっています。
- セーリングのSee Sports(みるスポーツ)としての価値向上のためには、簡易な仕組みで観戦体験を提供することが望まれています。このため、日本セーリング連盟において、導入が期待されるドローン映像、実況・解説を用いた配信ストリーミング等の導入可能性とその効果、あるべき品質・収益性について評価するため、2023年度は参加者・観戦者の多い全日本インカレにて検証テストを実施しました。

2

SeeSportsの価値向上のための課題・解決方策

- See Sportsの価値向上のため、観戦に関する以下の課題・解決方策が想定される。

価値	課題	解決方策
理解	競技特性、レースのルールや進行状況、順位・得点が理解しにくい。	実況解説や、トラッキング、順位表、画面上のルール・ポイント説明機能を充実させる。
臨場感	海上実施のため視認・識別できず、選手が直面しているリアルも感じられない。	定点カメラのほか、ドローン・オンボードカメラなどで臨場感・視認性を向上させる。
応援環境	選手のプロフィールも不明で、オンサイトの観客席・リモートでも応援しにくい。	選手のプロフィール・メッセージ提供、応援投稿スレッドを開設し、応援する環境を整備。
コミュニティ感	同一選手・チームを応援するコミュニティの形成・参加ができていない。	選手・チームフォロー等、統合プラットフォームで応援者・選手の相互可視化を図る。
費用対効果	チケットセールスがないので、観戦環境整備はコスト増にしかっていない。	既存プラットフォーム統合、アプリ登録・サブスク配信→セールス・ラグジュアリー化も。

実証実験の概要

2023年11月4日(土)～5日(日)第88回全日本学生ヨット選手権大会(於福岡県福岡市ヨットハーバー(小戸)、470級・スナイプ級団体戦、各24校・72艇エントリー)において、ドローン映像・解説・実況を組み合わせた配信を行い、選手・運営関係者、ヨット部OBOG、家族・親戚等の観戦者にアンケートによる評価を頂きました。

■実証実験の概要

日時: 2023年11月4日(土)～5日(日)

場所: 福岡県福岡市ヨットハーバー(小戸)

大会: 全日本学生ヨット連盟主催 第88回全日本学生ヨット選手権大会

実施者: 公益財団法人日本セーリング連盟(東京都新宿区)

委託: シンフォニティ株式会社(東京都千代田区: 撮影、実況、配信)

実証実験の様子



The banner features a dark background with a faint image of sailboats. In the top right corner, there are three logos: a red and white sailing boat logo, the Japanese flag, and the University of Yamanashi logo. The main text is in white and red, announcing a live stream event. A circular graphic on the right side indicates the date and time of the event.

LIVE STREAM

**ALL JAPAN
INTERCOLLEGIATE
SAILING
CHAMPIHONSHIP**

第88回全日本学生ヨット選手権大会

11月5日
9:30-

※配信開始時刻は目安です。

実証実験の様子



実証実験の様子



実証実験の結果

総再生回数は16,000回超、ユニーク視聴者数はそれぞれ2,000人超に上った。配信中総視聴時間は3,000時間弱、コメント投稿数は700投稿弱であった。

		11月4日(土)	11月5日(日)	合計
再生回数	総再生回数(～11/21PST)	7,980回	8,501回	16,481回
	うち、ライブ配信中再生回数	4,970回	5,451回	10,421回
視聴者数	ユニーク視聴者数(～11/21PST)	3,764人	3,901人	－
	うち、ライブ配信中ユニーク視聴者数	2,114人	2,340人	－
	※ライブ配信中同時視聴最大数	430人	602人	－
エンゲージメント	総再生時間(～11/21PST)	1,403時間	2,284時間	3,687時間
	うち、ライブ配信中総視聴時間	1,137時間	1,712時間	2,849時間
	ライブ配信中チャットコメント総数	237投稿	459投稿	696投稿

視聴者アンケート結果

アンケート概要

実施対象	第88回全日本学生ヨット選手権大会(2023年11月1日～2023年11月5日) 選手・大学関係者(選手家族・親戚、知人友人、ヨット部OBOG)を中心とする視聴者
実施時期	2023年11月4日～2023年11月13日
実施方法	Googleフォームを利用した以下アンケートページを用意してリアルタイム配信視聴者の回答を収集 「リアルタイム映像配信観戦についてのアンケート(全日本インカレ2023)」
回答数	239件 「リアルタイム配信の満足度」は210件 「来年の大会におけるリアルタイム配信の実施希望」は207件
質問概要	・回答者基礎情報(年齢、性別、出場選手や大学との関係、セーリング経験) ・観戦した内容(観戦場所、観戦した方法、観戦したレース) ・リアルタイム配信の満足度 ・レース印象の変化(9問) ・映像配信ツールの効果度(7問) ・満足した点、改善すべき点(自由回答) ・来年の配信希望 ・支払える年間コスト ・その他観戦体験のあり方(自由回答)

アンケート回答者の属性

■回答者の性別・年齢階級

男性が7割強、女性が3割弱で、男性の割合が多かった。

年齢階級別では、20代(33.1%)と50代(24.3%)が多かった。

	男性		女性		合計	
10代	18	7.5%	8	3.3%	26	10.9%
20代	53	22.2%	26	10.9%	79	33.1%
30代	14	5.9%	4	1.7%	18	7.5%
40代	17	7.1%	8	3.3%	25	10.5%
50代	39	16.3%	19	7.9%	58	24.3%
60代以上	31	13.0%	2	0.8%	33	13.8%
合計	172	72.0%	67	28.0%	239	100.0%

アンケート回答者の属性

■出場選手・大学との関係性

回答者の選手との関係性を以下の 3つに分類した。

分類	回答者の関係	回答者数	割合
選手・指導者・運営関係者等	● 関係者(指導者等)(N=6) ● 関係者(同大学チーム所属選手等)(N=42) ● 運営・運営役員(N=3) ● 学連関係者(N=1) ● 現役ヨット部員(未出場)(N=4) ● 出場選手(N=1)	57	23.8%
ヨット部OBOG	● 出場大学チームのOBOG(N=91) ● 出場大学以外のOBOG(N=2)	93	38.9%
家族・親戚、知人・友人、大学OBOG、その他	● 家族・親戚(N=38) ● 友人・知人(N=12) ● 出場大学の卒業生(N=8) ● 一般(特に出場選手や大学と関係はない)(N=29) ● その他の関係(N=2)	89	37.2%

アンケート回答者の属性

■出場選手・大学との関係性(年齢階級別)

「選手・指導者・運営関係者等」(23.8%)は20代以下が多い

「ヨット部OBOG」(38.9%)は30代・40代が少なく、20代(卒業直後)と50代以上(親世代)が多い

「家族・親戚、知人・友人、大学 OBOG、その他」(37.2%)は20代以下と50代以上が多くなっている。

	選手・指導者・運営関係者等		ヨット部OBOG		家族・親戚、知人・友人、大学 OBOG、その他		合計	
10代	20	8.4%	0	0.0%	6	2.5%	26	10.9%
20代	26	10.9%	36	15.1%	17	7.1%	79	33.1%
30代	2	0.8%	12	5.0%	4	1.7%	18	7.5%
40代	3	1.3%	13	5.4%	9	3.8%	25	10.5%
50代	4	1.7%	15	6.3%	39	16.3%	58	24.3%
60代以上	2	0.8%	17	7.1%	14	5.9%	33	13.8%
合計	57	23.8%	93	38.9%	89	37.2%	239	

アンケート回答者の属性

■出場選手・大学との関係性別（性別）

「ヨット部OBOG」は全体に比べて男性が多く、「家族・親戚、知人・友人、大学 OBOG、その他」は全体に比べて女性の割合が多かった。

	選手・指導者・運営関係者等		ヨット部OBOG		家族・親戚、知人・友人、大学 OBOG、その他		合計	
男性	40	16.7%	73	30.5%	59	24.7%	172	72.0%
女性	17	7.1%	20	8.4%	30	12.6%	67	28.0%
合計	57	23.8%	93	38.9%	89	37.2%	239	

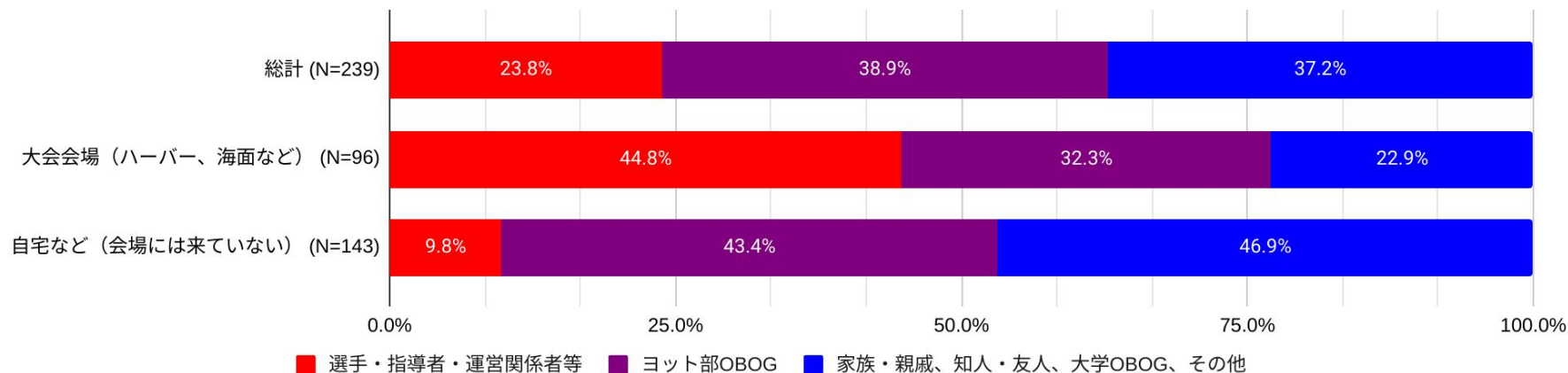
観戦した場所

観戦した場所は、大会会場が 4 割、会場以外(自宅等)が 6 割であった。

■出場選手・大学との関係性別

観戦した場所は、大会会場が 4 割、会場以外(自宅等)が 6 割であった。

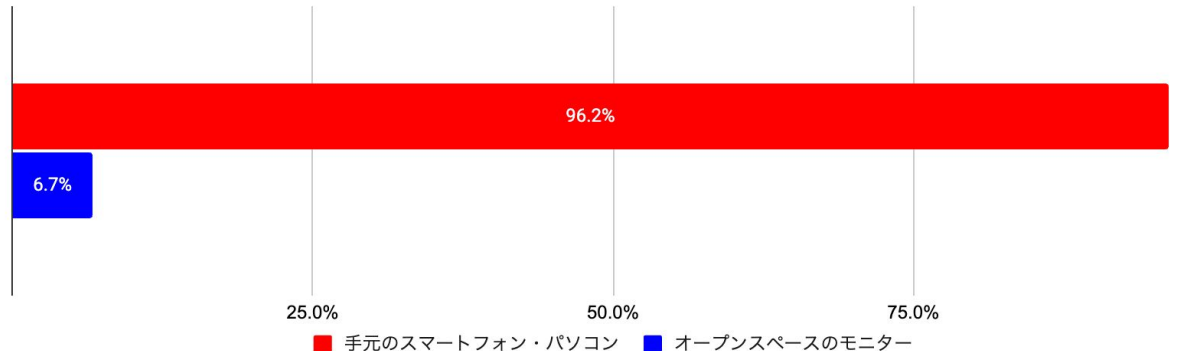
会場以外で視聴したのは「家族・親戚、知人・友人、大学 OBOG、その他」が最も多く、次いで「ヨット部 OBOG」で、合わせて半数を超えていた。



観戦した方法・観戦したレース

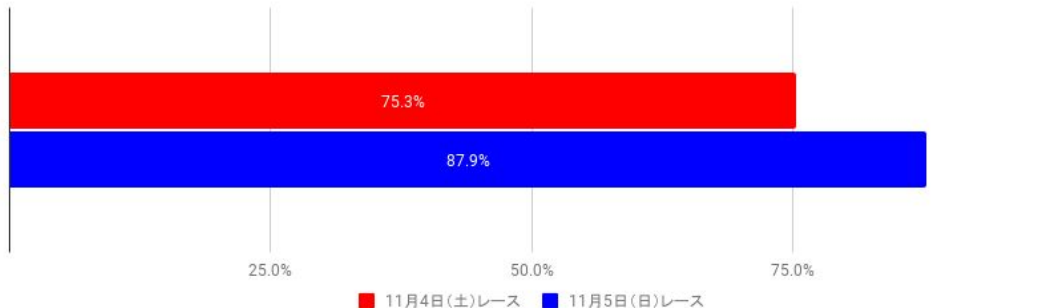
■観戦した方法(N=239)

手元のスマートフォン・パソコンが 96%強、オープンスペースのモニターが 7%弱であった。



■観戦したレース(N=239)

11/4(土)が75%強、11/5(日)が88%弱で、11/5(日)の方が12%ほど多い。



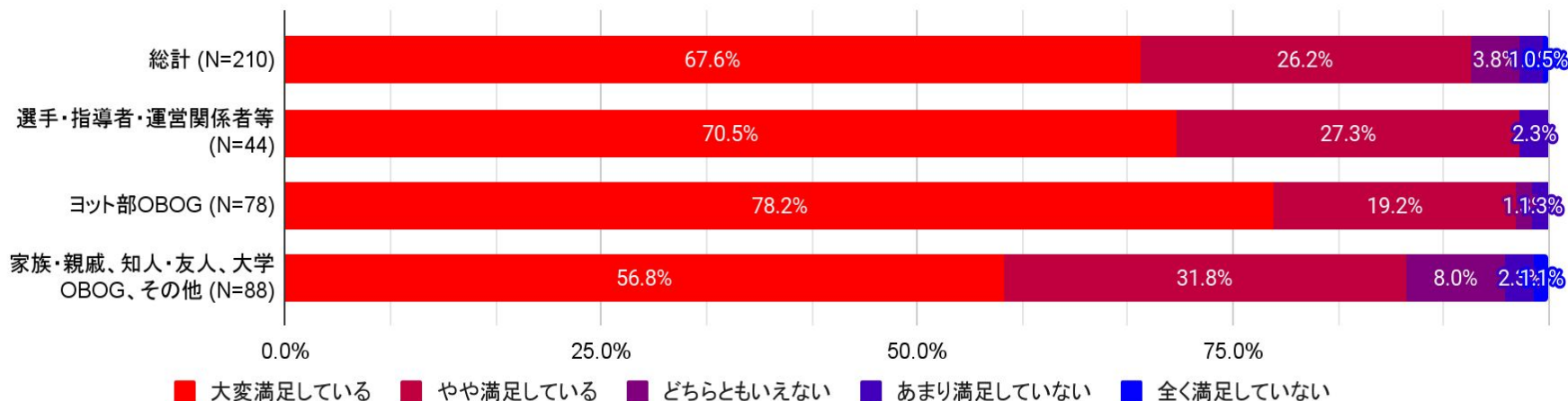
リアルタイム配信の満足度

回答全体のうち、満足と回答した人が 90%以上、不満と回答した人は 2%程度であった。

■出場選手・大学との関係性別

ヨット部OBOGでは、他に比べて「大変満足している」の割合が最も高い。

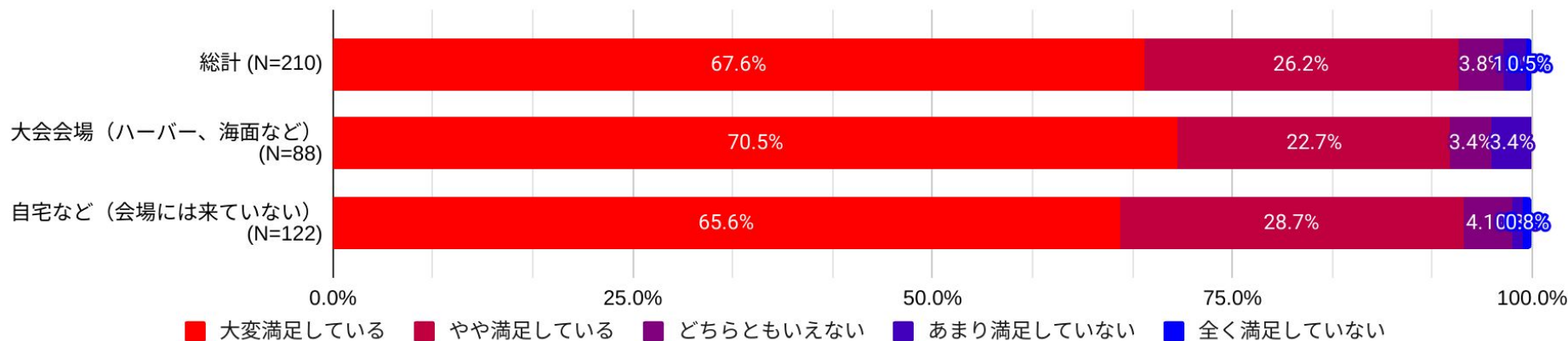
「家族・親戚、知人・友人、大学 OBOG、その他」は他に比べて満足度が低かった。



リアルタイム配信の満足度

■観戦場所別

大会会場のほうが「大変満足している」の割合が多かったが、大変満足している・やや満足しているをあわせると会場以外が多かった。

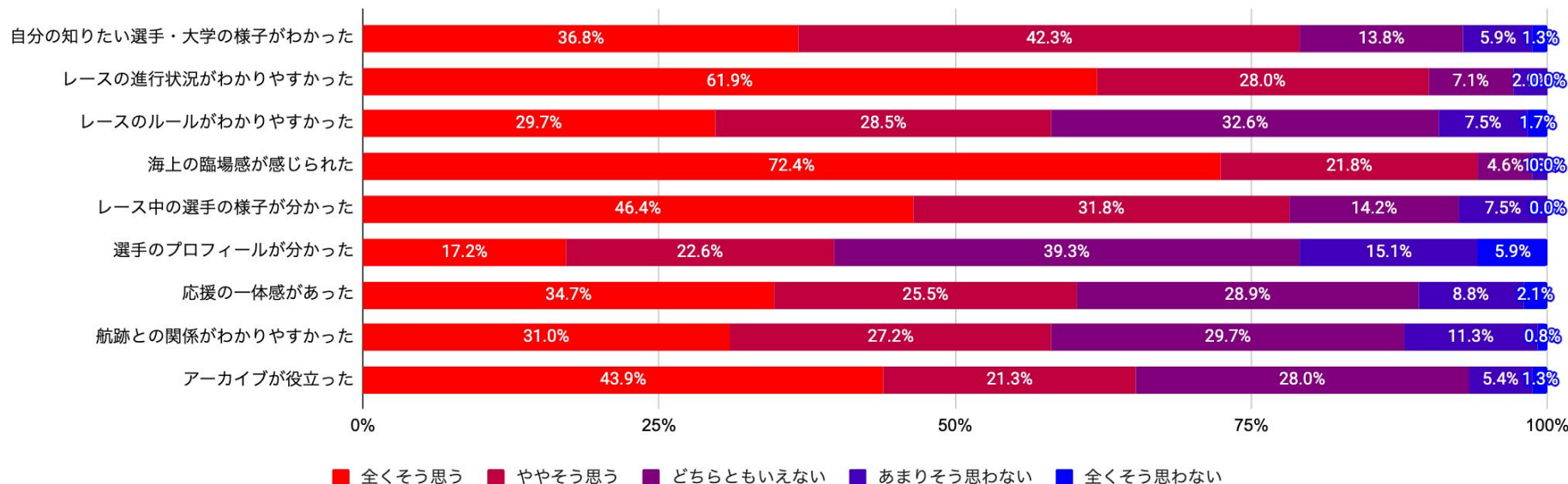


レース印象の変化

全くそう思う・ややそう思うの割合が最も多かったのは、「海上の臨場感が感じられた」(9割強)、次いで「レースの進行状況がわかりやすかった」、「自分の知りたい選手・大学の様子がわかった」、「レース中の選手の様子がわかった」であった。

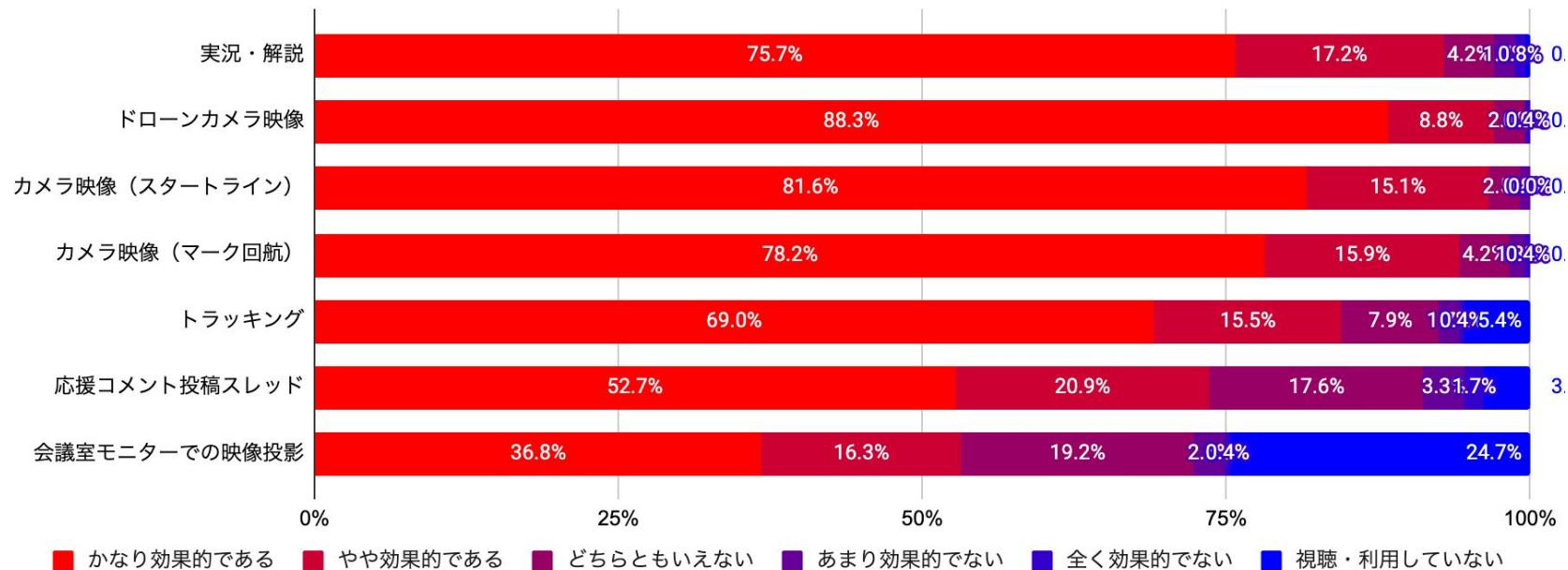
一方、少なかったのは「選手のプロフィールが分かった」(4割弱)、「航跡との関係がわかりやすかった」、「応援の一体感があった」、「レースのルールがわかりやすかった」であった。

※配信に向けて選手のプロフィールが事前収集できておらず、紹介できなかったことが影響している。



映像配信ツールの効果

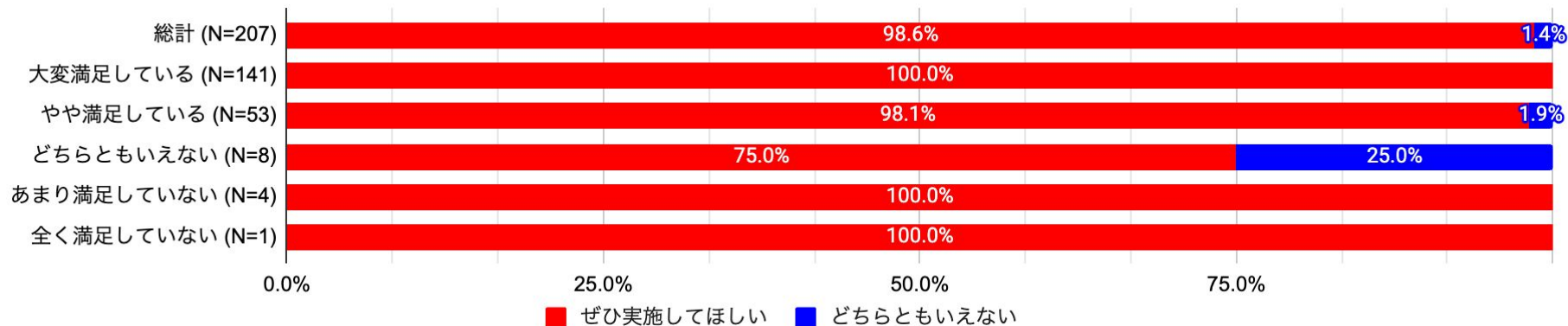
効果的であるの割合が多かったのは「ドローンカメラ映像」、「カメラ映像」、「実況・解説であった」



来年の大会におけるリアルタイム配信の実施希望

■満足度別

全体では実施してほしいと回答した人が 98%、実施しなくて良いと回答した人が 0%であった。
満足していない層であってもぜひ実施してほしいと回答した人が 100%であった。

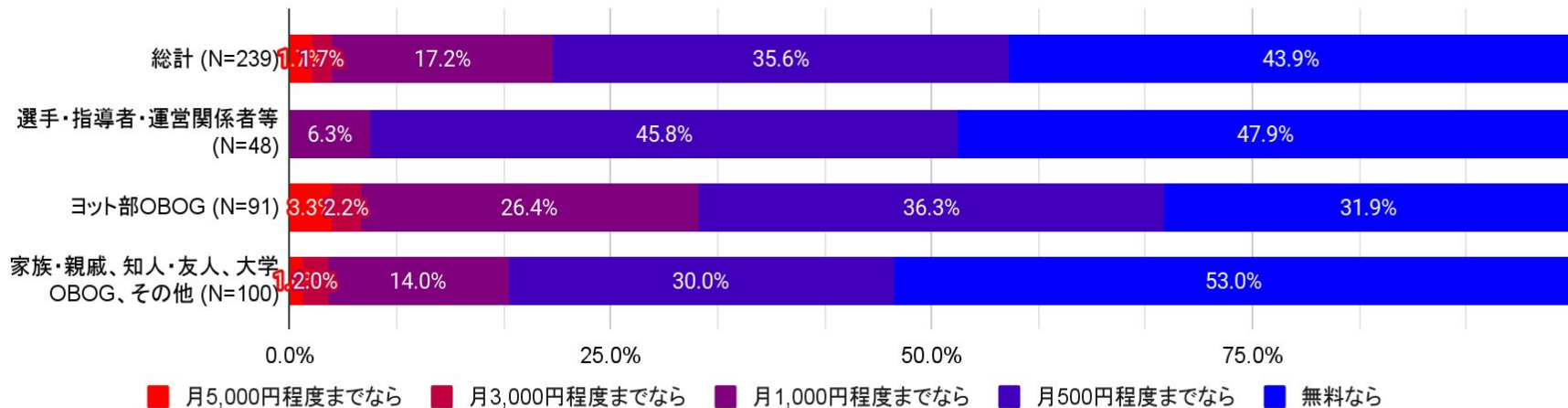


リアルタイム配信の年間コスト希望

■出場選手・大学との関係性別

全体では有料と回答した人のうち、月 1000円程度と500円程度を合わせると 53%となる。

ヨット部OBOGは、有料でもよいと回答した人の割合が高い。



■リアルタイム映像配信で面白かった・満足した・継続してほしい点

主な意見	件数
実況・解説が良かった	42
映像全般が良かった	38
これからも継続実施してほしい	17
臨場感があり良かった	14
応援コメントが良かった	5
海上の様子がわかって良かった	4
選手プロフィール紹介が面白かった	3
現地に行けなくても映像配信で応援することができた	2
この初の取り組み自体がすばらしい	2
その他	25

■リアルタイム映像配信で面白くなかった・不満があった・改善してほしい点

主な意見	件数
実況・解説に不満	15
リアルタイムの情報表示をしてほしい	12
間延びした時間帯は他の情報などを表示してほしい	9
トラッキングなどの追加情報を映像内で観れるようにしてほしい	7
クラスを分けた配信をしてほしい	6
映像品質に不満	5
学校・各選手紹介がほしい	4
臨場感を高めてほしい	3
選手の情報表示を充実してほしい	3
その他	28

■その他観戦経験のあり方についての意見・要望

主な意見	件数
セーリング界のスポンサーが必要	5
コストは都度払いが良い	5
是非継続していただきたい	4
他のイベントを参考にしてほしい	3
視点を自由に切り替えたい	3
レースを直接観られないので、映像配信があるとありがたい	3
トラッキングなどの追加情報も画面上で観たい	3
このような取組みを続けてほしい	3
選手紹介が楽しかった	2
その他	31

今後の動画配信に向けて

- 全般的に満足度が高く、大変意義のある試みであったことがわかる。自由回答においてもこの取り組みを肯定的に捉え、来年以降も是非継続してもらいたいといった意見が多く見られた。
- 視聴後の印象の変化においては、レース中の様子や進行状況の判りやすさ、海上の臨場感の伝わり方が様々な回答者属性において肯定的に捉えられている一方で、視聴中におけるレースのルール判りやすさ、応援の一体感、航跡との関係の判りやすさの肯定度が比較的低いことが明らかとなった。

ルールの判りやすさについて、観戦経験の乏しい層で否定的な回答が多いことから、この点を改善することでレースに対する理解度を高め、裾野の拡大に寄与する可能性がある。

今後の動画配信に向けて

- 映像配信ツールにおいては、実況・解説、各種カメラ画像、トラッキングに対する評価は非常に高いが、応援コメント投稿スレッドと会議室モニターでの映像投影の評価は若干低くなっている。

実況・解説の評価は数値上では非常に高く、自由回答においても賞賛の意見が多数見られたものの、不満や改善要望の意見も散見された。万人受けするのは困難と思われるが、要所を改善することでより良い内容を視聴者に提供することが期待できる。

会議室モニターでの映像投影については、視聴・利用していないといった回答が他のツールと比較して多いが、自由回答の中で存在を知らなかった・観ることが出来なかったという意見が数件あった。効果自体は高いので、会議室モニターへの誘導を促すなどの利用度を上げる施策をとることで、応援の一体感などの印象面の向上につながることを期待できる。

今後の動画配信に向けて

- 来年の大会におけるリアルタイム配信の実施希望は、「実施しなくてもよい」回答はなく、満足度に否定的な回答をした層であっても実施してほしい回答しかないことは、将来への期待度の表れと捉えられる。
- リアルタイム配信の年間コスト希望は無料か月間500円程度までが大多数であるものの、無料が過半数を占めている訳ではなく、有料であっても視聴したい意思が表れる結果となった。

特にヨット部OBOGの有料でもよいという割合は高く、設問の中でも高額の範疇を多く回答していた。また、家族・親戚の視聴者数が多く、同様に有料でもよいという割合が高い。

これらのことから、視聴者確保のための無料の枠組みを残しつつ、主に家族・親戚とヨット部OBOG層をターゲットとして有料を前提とした施策を打つことで収益化への道筋が描ける可能性がある。

今後の動画配信に向けて

- 自由回答の不満・改善要望の中に、映像の中にリアルタイムでトラッキングや他の情報を表示や、風待ちなどの間延びした時間帯は映像をそのまま流すのではなく、選手プロフィールの紹介や他の情報に映像を切り替えると良いのではといった、映像構成に対する意見が多くあった。

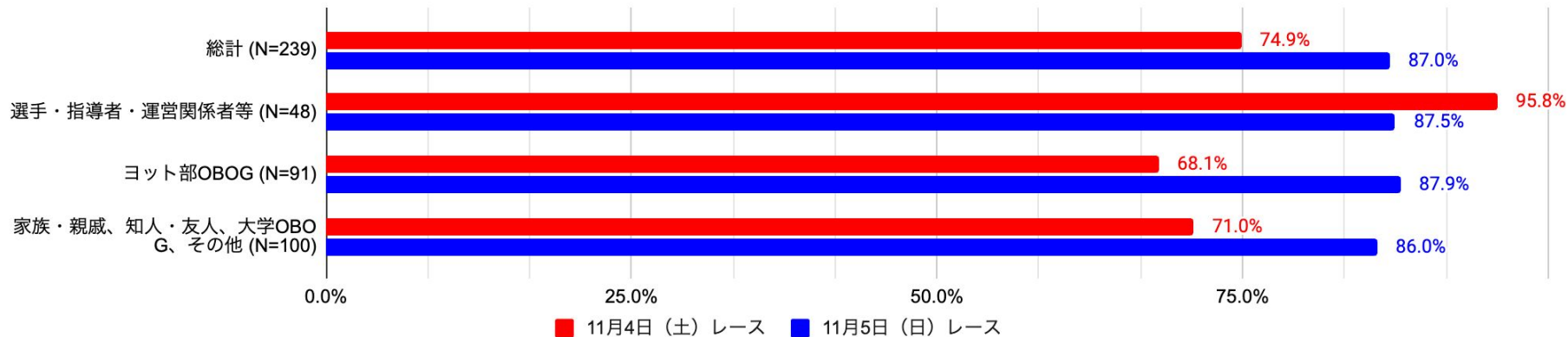
また、映像にタイムラグがあったり乱れることや、海面上の映像で揺れが大きく視聴し辛いといった、技術的な問題点を指摘する意見も散見された。

今後に向けて、これらの要望や問題を解決することで、より良い品質の映像配信を期待できる。

(参考)観戦したレース

■出場選手・大学との関係性別

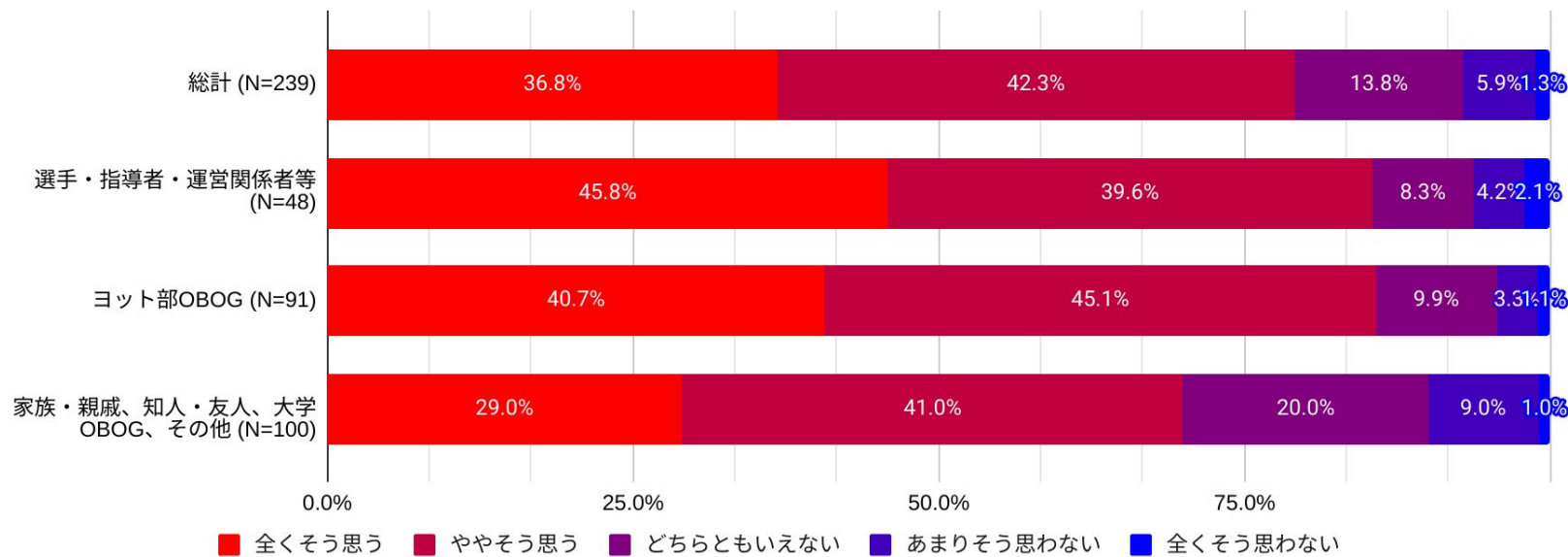
選手・指導者・運営関係者の層が 11/4の観戦割合が11/5よりも8%ほど高くなっており、他の層と逆転している。



(参考)レース印象の変化 - 選手・大学の様子のわかりやすさ

■出場選手・大学との関係性別

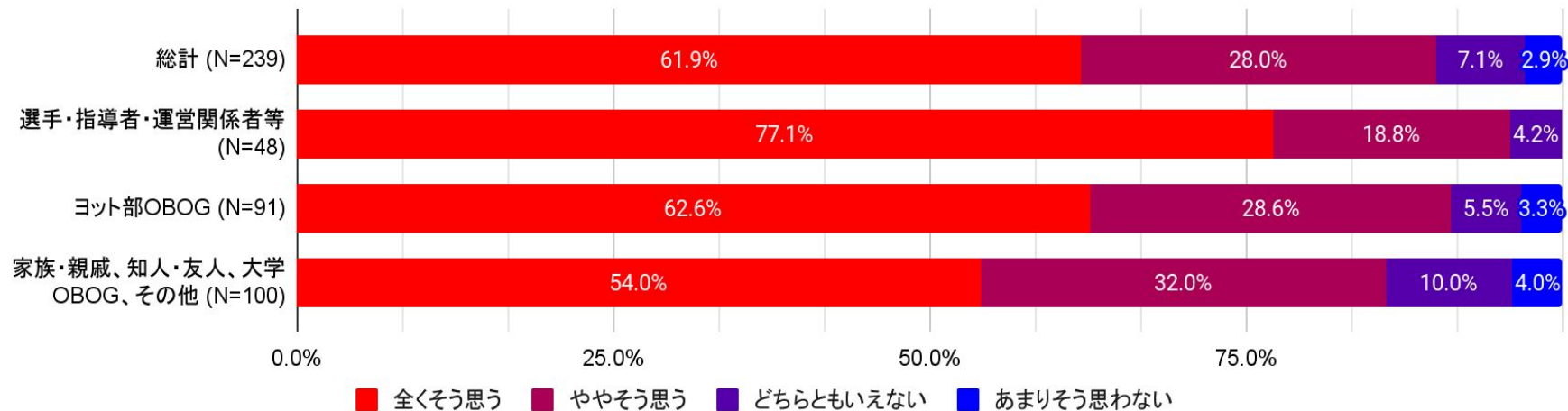
選手・指導者、ヨット部 OBOGはわかりやすいと回答する割合が 8割程度であったが、家族・親戚等は7割程度にとどまった。



(参考)レース印象の変化 - レース進行状況のわかりやすさ

■出場選手・大学との関係性別

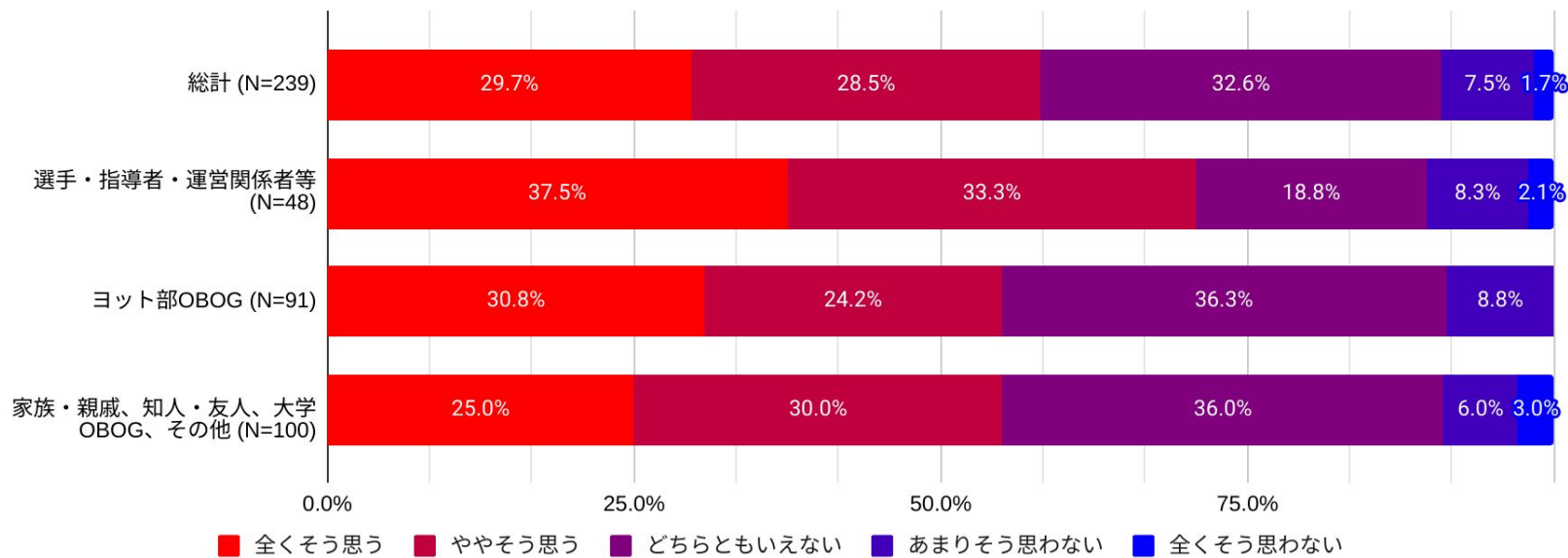
そう思うと回答した人の割合が、選手・指導者・運営関係者 → ヨット部OBOG → その他の順に低くなる傾向がある。



(参考)レース印象の変化 - ルールのわかりやすさ

■出場選手・大学との関係性別

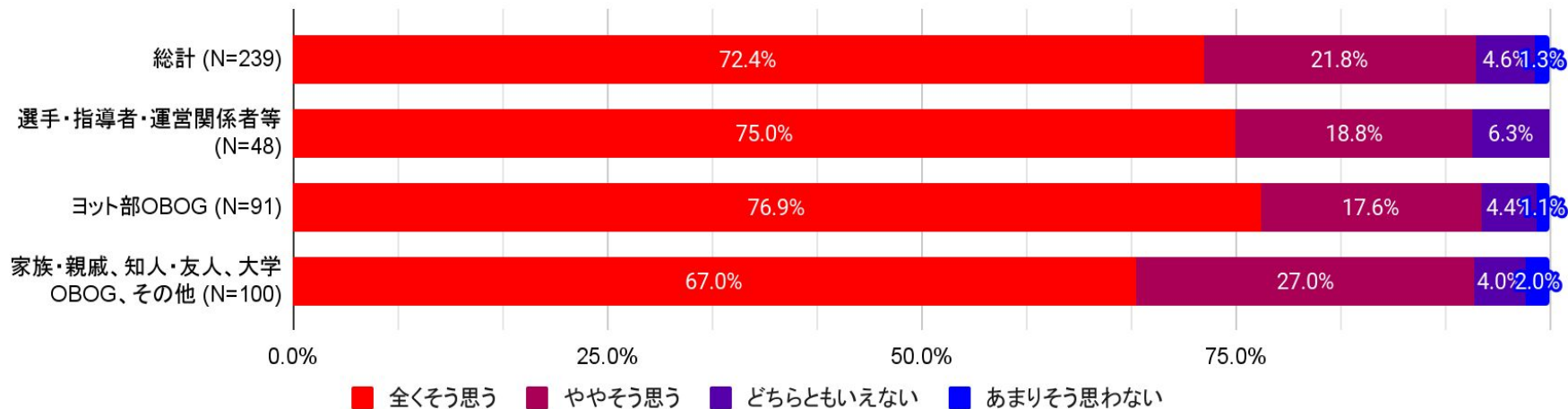
そう思うと回答した人の割合が、選手・指導者・運営関係者 → ヨット部OBOG → その他の順に低くなる傾向がある。



(参考)レース印象の変化 - 海上の臨場感

■出場選手・大学との関係性別

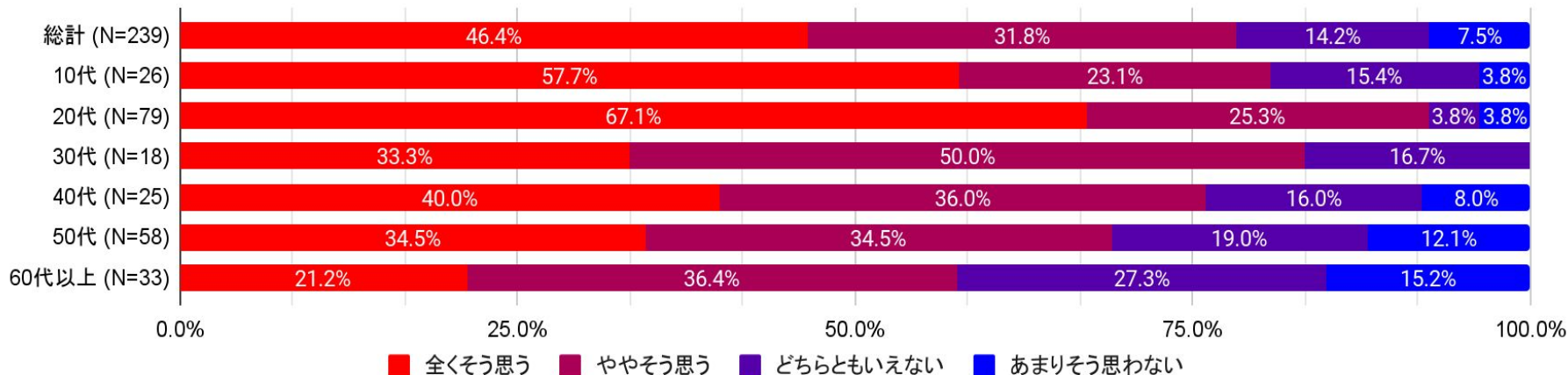
ヨット部OBOGの全くそう思うと回答した人の割合が 77%程度あり、選手・指導者・運営関係者よりも高くなっている。



(参考)レース印象の変化 - レース中の選手の様子のわかりやすさ

■年齢階級別

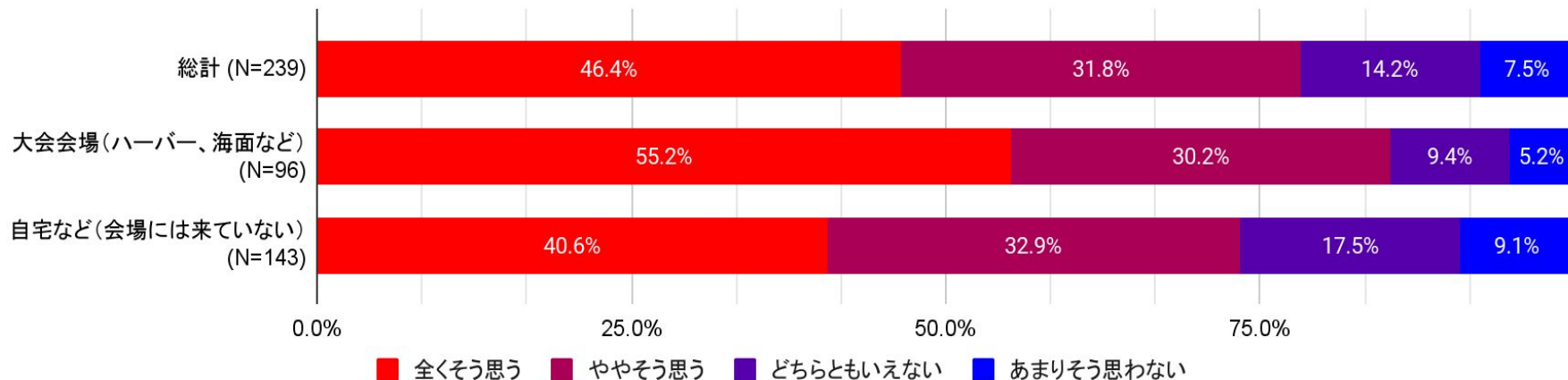
若い年齢階級がそう思うと回答した人が多く、年齢階級が上がるにつれて少なくなっていくが、10代は20代に比べて少ない。



(参考)レース印象の変化 - レース中の選手の様子のわかりやすさ

■観戦場所別

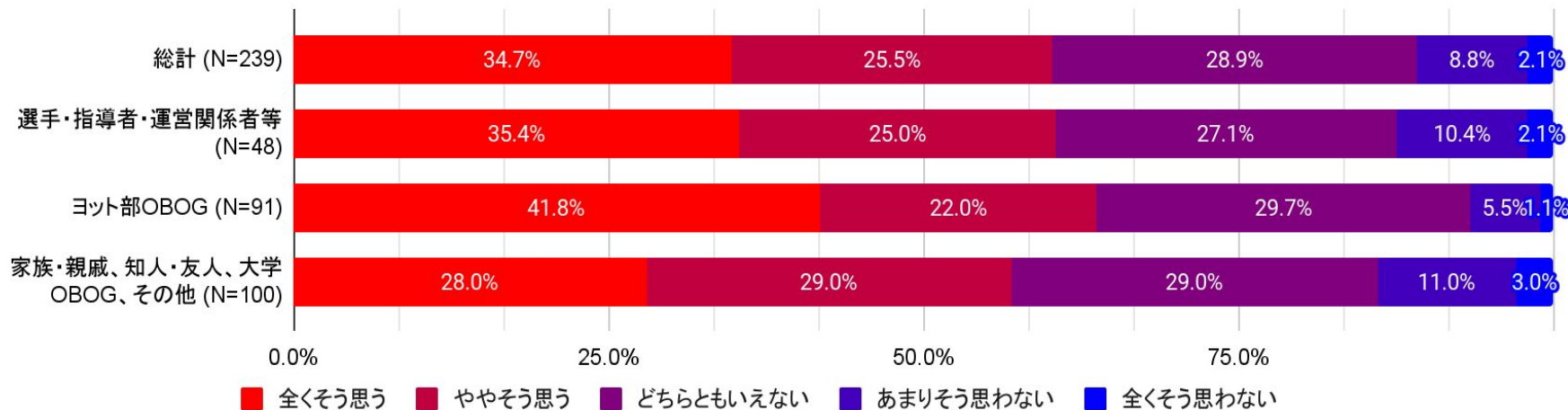
そう思うと回答した人の割合が、大会会場の方が会場以外より 10%以上高い。



(参考)レース印象の変化 - 応援の一体感

■出場選手・大学との関係性別

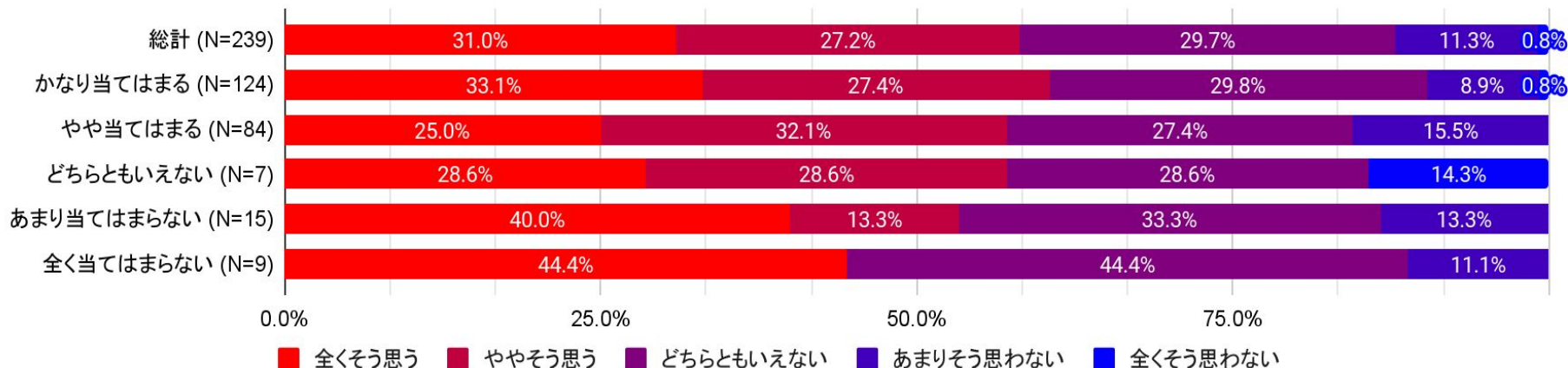
ヨット部OBOGのそう思うと回答した人の割合が 64%弱あり、選手・指導者・運営関係者よりも高くなっている。



(参考)レース印象の変化 - 航跡との関係のわかりやすさ

■セーリング競技の理解度別

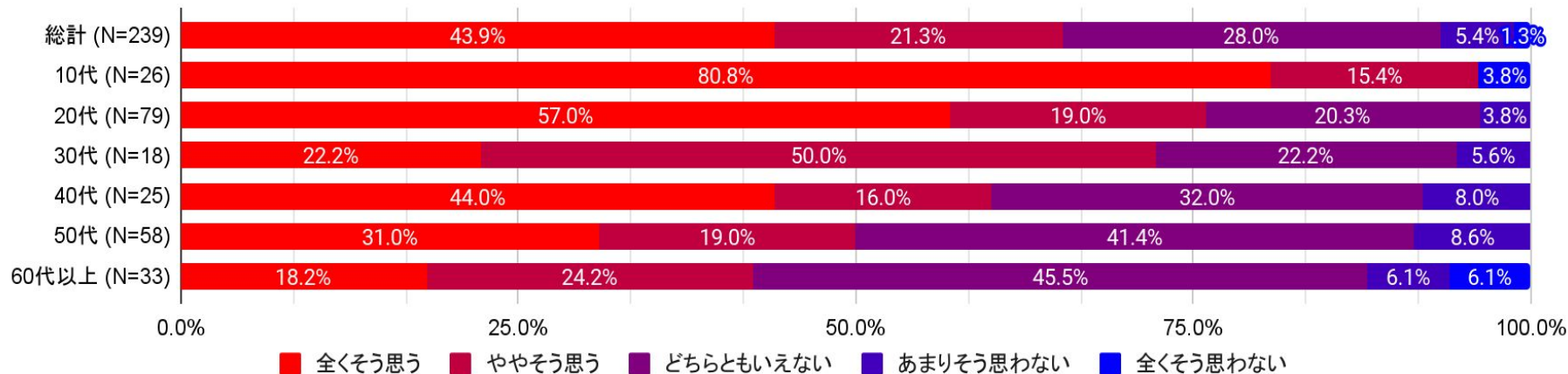
理解度の高さと印象の高さに関連性が見られる。



(参考)レース印象の変化 - アーカイブの役立ち度

■年齢階級別

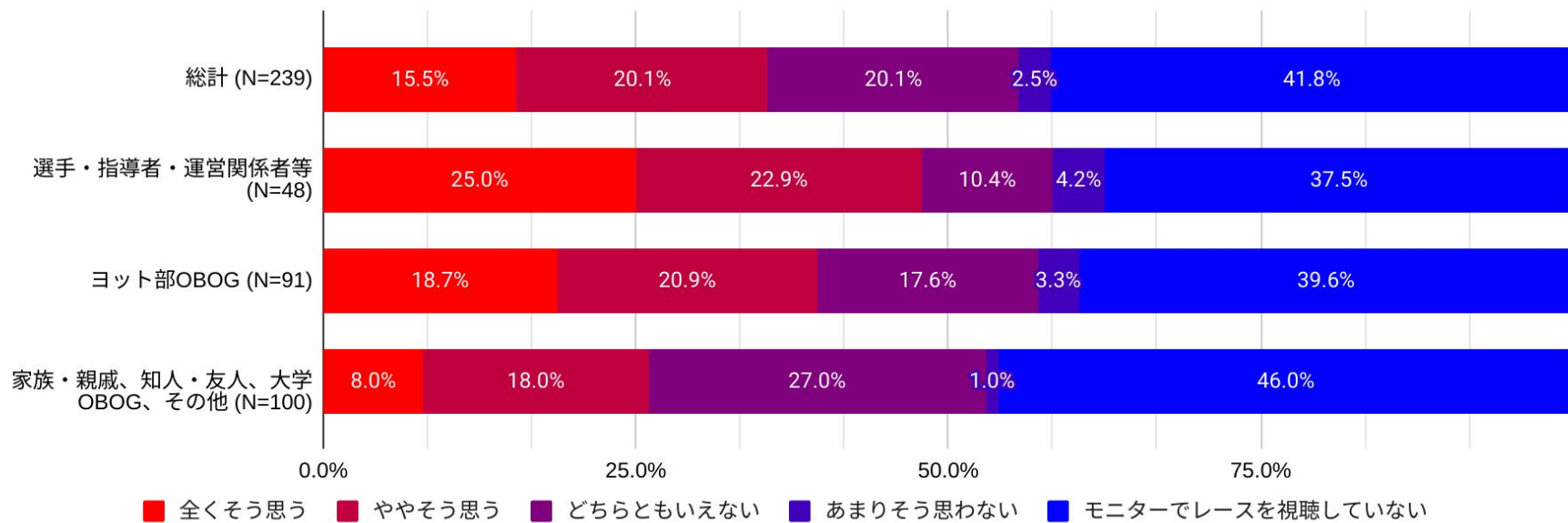
若い年齢階級のほうがそう思うと回答した人の割合が高くなっている。



(参考)レース印象の変化 - 会場モニターによる応援の一体感

■出場選手・大学との関係性別

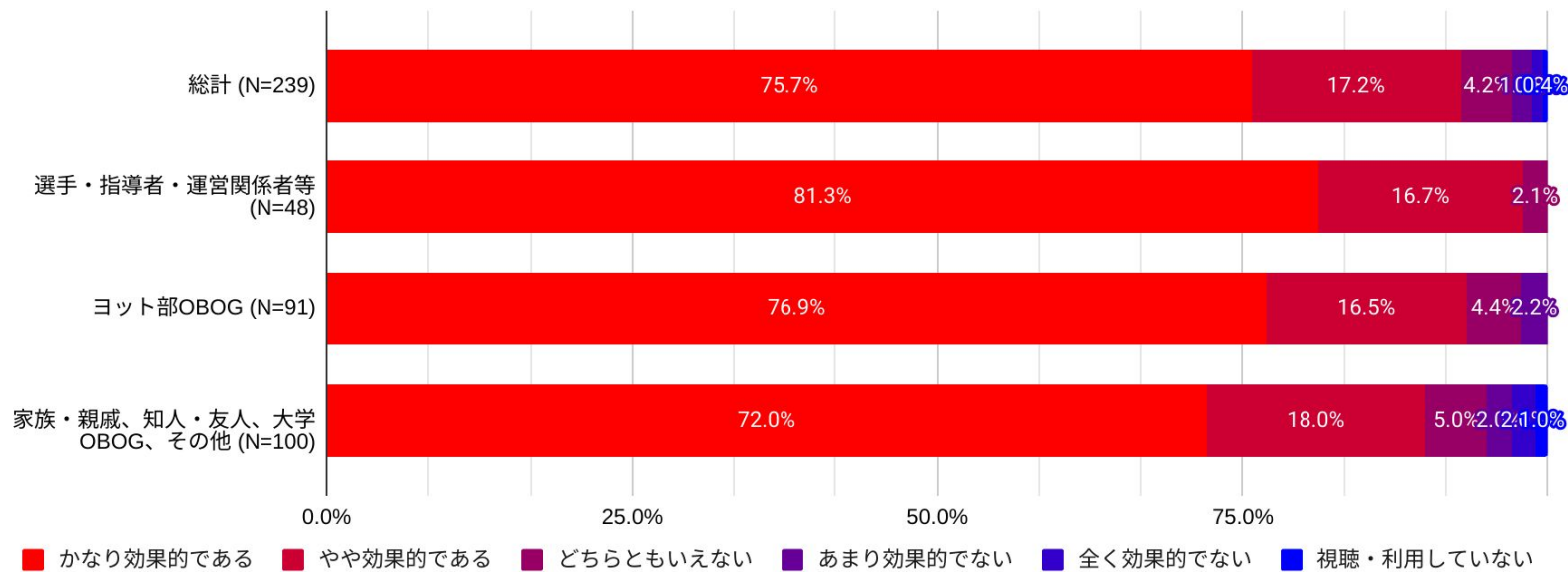
そう思うと回答した人の割合が、選手・指導者・運営関係者 → ヨット部OBOG → その他の順に低くなる傾向がある。



(参考)映像配信ツールの効果 - 実況・解説

■出場選手・大学との関係性別

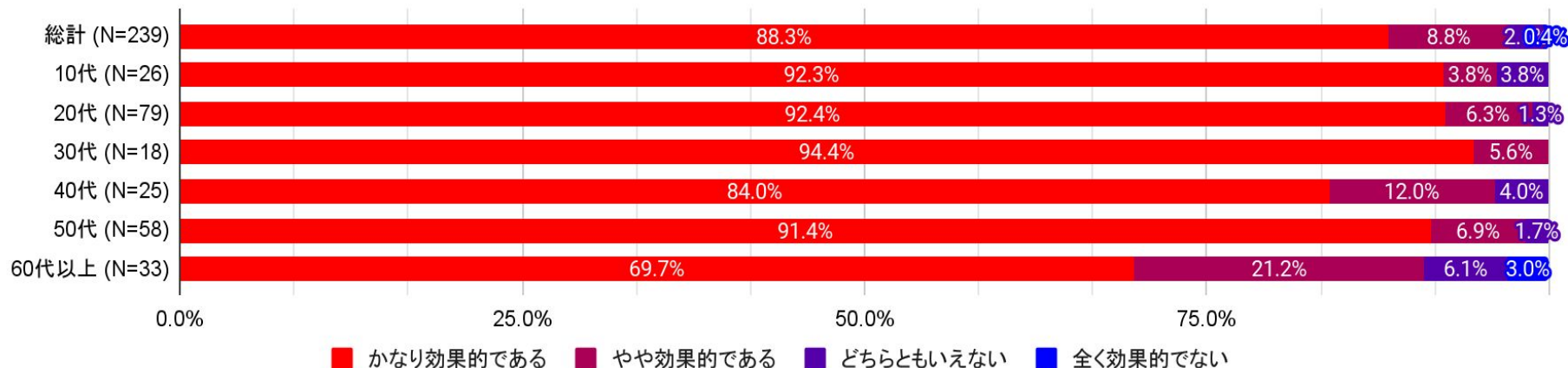
そう思うと回答した人の割合が、選手・指導者・運営関係者 → ヨット部OBOG → その他の順に低くなる傾向がある。



(参考)映像配信ツールの効果 -ドローンカメラ

■年齢階級別

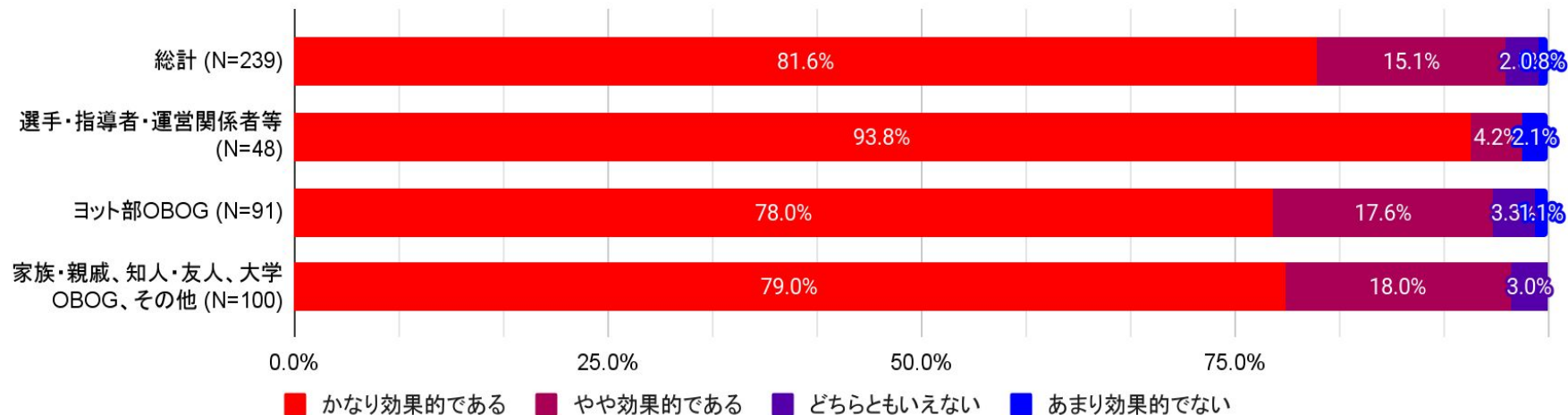
効果的と回答した人の割合は全体で 96%と高いが、60代以上に効果的でないと回答した人の割合が 9%存在している。



(参考)映像配信ツールの効果 - スタートライン

■出場選手・大学との関係性別

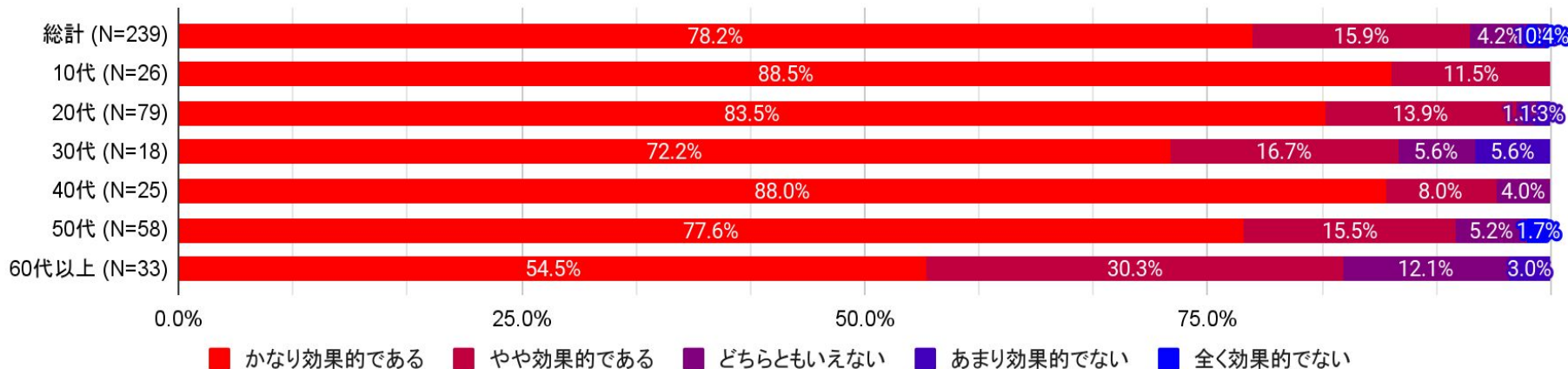
選手・指導者・運営関係者でかなり効果的と回答した人の割合が 94%弱と高いが、あまり効果的でないと回答した人の割合が若干ある。



(参考)映像配信ツールの効果 - マーク回航

■年齢階級別

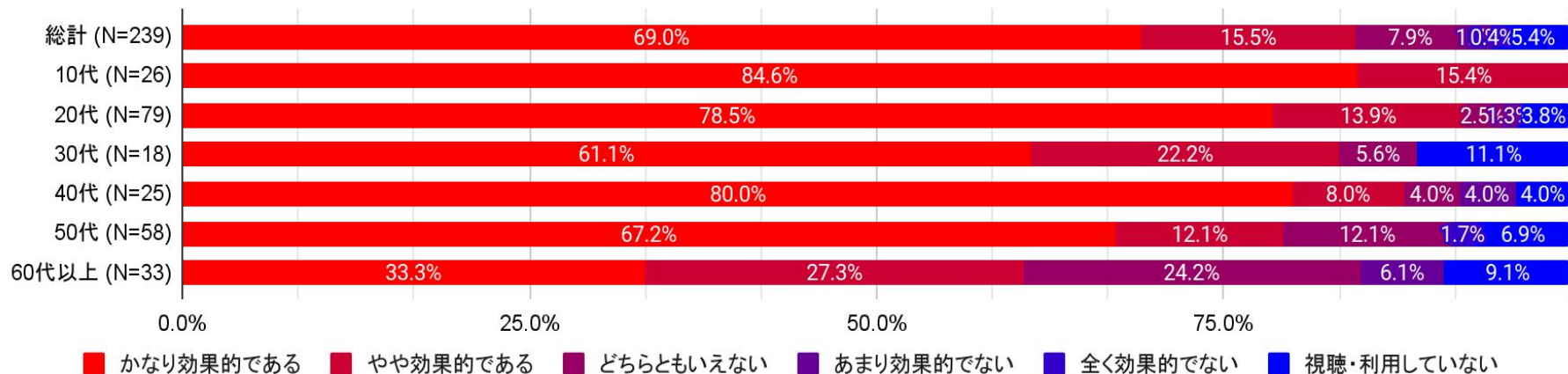
若い年齢階級のほうが効果的と回答した人の割合が高くなっているが、30代の割合が低くなっている。



(参考)映像配信ツールの効果 -トラッキング

■年齢階級別

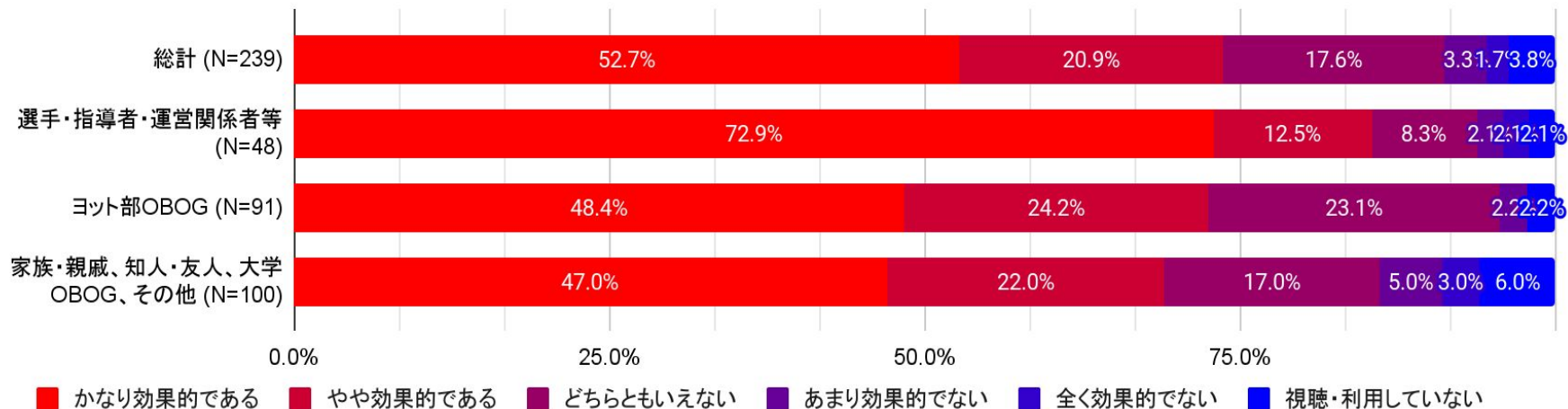
若い年齢階級のほうが効果的と回答した人の割合が高く、年齢階級が上がるにつれて低くなっている。



(参考)映像配信ツールの効果 - 応援コメント投稿スレッド

■出場選手・大学との関係性別

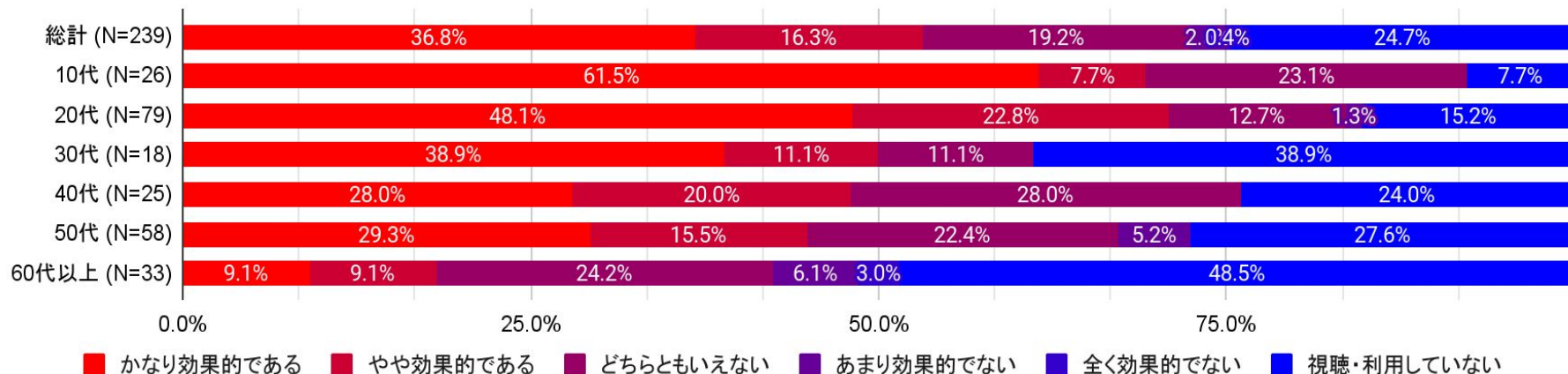
効果的と回答した人の割合が、選手・指導者・運営関係者 → ヨット部OBOG → その他の順に低くなっている。



(参考)映像配信ツールの効果 - 会議室モニターでの映像投影

■年齢階級別

効果的でないと回答した人の割合は低いが、視聴・利用していないと回答している人の割合が高く、60代以上で特に高い。



(参考)リアルタイム配信の年間コスト希望

■セーリング競技の観戦経験別

観戦経験の高い方が有料と回答した人の割合が高く、より高額を許容する傾向であった。

